

| |
|-------|
| 正 誤 表 |
|-------|

下記の部分に誤りがありましたので訂正させていただきます。
ご迷惑をおかけし大変申し訳ございません。

わかりやすい！IT 基礎入門 第3版 第1刷（電子書籍版含む）

| No. | 訂正箇所 | 誤 | 正 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|--|---|---|-----|--------|---|------|---|------|--|--|-----|-----|--------|--|------|---|------|---|
| 1 | P.82 | <p>(4) クラウドコンピューティング</p> <p>クラウドコンピューティングでは、Web サーバに、HTML 文書や画像などの情報をファイルとして蓄積しておき、Web ブラウザからの要求に応じて、インターネット経由で送信する機能を持ちます。</p> <p>当初の Web サーバは、あらかじめ用意しておいたファイル（静的ページ）を送出する機能しかなかったのですが、現在では、要求に応じてプログラムを実行し、結果をクライアントに送信する動的ページ生成の機能や、データベースと連携したものが一般的になりました。詳しくは 7.1.4 ソリューションビジネスで説明します。</p> | <p>(4) クラウドコンピューティング</p> <p>クラウドコンピューティングとは、ネットワーク（インターネット）の向こうにサービスを提供するクラウド（雲）があり、ユーザ側から見るとサーバの場所や構成などは意識することなく、サービスを受けるというコンピューティング形態です。ネットワークコンピューティングという用語を、利用者の観点から言い換えたものと考えられる場合もあります。詳しくは 7.1.4 ソリューションビジネスで説明します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | P.187 図表 3-67 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">機 能</th> <th style="width: 80%;">解 説</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">自己伝染機能</td> <td>プログラムやデータ等のファイルの破壊を行ったり、コンピュータに異常な動作をさせたりする機能</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">潜伏機能</td> <td>発病するための特定時刻、一定時間、処理回数等の条件を記憶させて、条件が満たされるまで症状を出さない機能</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">発病機能</td> <td>自らの機能によって他のプログラムに自らをコピーし、またはシステム機能を利用して自らを他のシステムにコピーすることによって、他のシステムに伝染する機能</td> </tr> </tbody> </table> | 機 能 | 解 説 | 自己伝染機能 | プログラムやデータ等のファイルの破壊を行ったり、コンピュータに異常な動作をさせたりする機能 | 潜伏機能 | 発病するための特定時刻、一定時間、処理回数等の条件を記憶させて、条件が満たされるまで症状を出さない機能 | 発病機能 | 自らの機能によって他のプログラムに自らをコピーし、またはシステム機能を利用して自らを他のシステムにコピーすることによって、他のシステムに伝染する機能 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">機 能</th> <th style="width: 80%;">解 説</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">自己伝染機能</td> <td>自らの機能によって他のプログラムに自らをコピーし、またはシステム機能を利用して自らを他のシステムにコピーすることによって、他のシステムに伝染する機能</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">潜伏機能</td> <td>発病するための特定時刻、一定時間、処理回数等の条件を記憶させて、条件が満たされるまで症状を出さない機能</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">発病機能</td> <td>プログラムやデータ等のファイルの破壊を行ったり、コンピュータに異常な動作をさせたりする機能</td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red; margin-top: 5px;">※「自己伝染機能」と「発病機能」の解説を入れ替えております。</p> | 機 能 | 解 説 | 自己伝染機能 | 自らの機能によって他のプログラムに自らをコピーし、またはシステム機能を利用して自らを他のシステムにコピーすることによって、他のシステムに伝染する機能 | 潜伏機能 | 発病するための特定時刻、一定時間、処理回数等の条件を記憶させて、条件が満たされるまで症状を出さない機能 | 発病機能 | プログラムやデータ等のファイルの破壊を行ったり、コンピュータに異常な動作をさせたりする機能 |
| 機 能 | 解 説 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自己伝染機能 | プログラムやデータ等のファイルの破壊を行ったり、コンピュータに異常な動作をさせたりする機能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 潜伏機能 | 発病するための特定時刻、一定時間、処理回数等の条件を記憶させて、条件が満たされるまで症状を出さない機能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 発病機能 | 自らの機能によって他のプログラムに自らをコピーし、またはシステム機能を利用して自らを他のシステムにコピーすることによって、他のシステムに伝染する機能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 機 能 | 解 説 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自己伝染機能 | 自らの機能によって他のプログラムに自らをコピーし、またはシステム機能を利用して自らを他のシステムにコピーすることによって、他のシステムに伝染する機能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 潜伏機能 | 発病するための特定時刻、一定時間、処理回数等の条件を記憶させて、条件が満たされるまで症状を出さない機能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 発病機能 | プログラムやデータ等のファイルの破壊を行ったり、コンピュータに異常な動作をさせたりする機能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | P.257 図表 6-2 右端 | リソース管理 | リ リ ース管理 | | | | | | | | | | | | | | | | |